

第9回金型関連技術発表講演会開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は日本金型工業会の活動に格別のご理解ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、西部支部主催第9回金型関連技術発表講演会を3月16日（火）に開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席のほどお願い申し上げます。なお準備の都合がございますので、別紙の参加申込書に必要事項をご記入の上、3月9日（火）までに、事務局にメールr.tsuji@jdmia.or.jp か FAX06-6479-1479でご返信のほどお願い申し上げます。

敬具

記

日 時 令和3年3月16日（火） 13時30分～17時10分

内 容 1. 基調講演 13時30分～15時

テーマ：先々代、先代から引き継いで来た事、それは前例のない事、モノ、サービスへの挑戦！！

講師：(株)岡崎製作所 代表取締役社長 岡崎 浩 様

2. 技術発表講演会 15時10分～17時10分

5社による金型関連技術発表

場 所 Web会議方式（Zoomを使用）

参加費 無料

申込み方法 別紙参加申込書を3月9日（火）までにメールかFAXでお送り下さい

メール r.tsuji@jdmia.or.jp

FAX 06-6479-1479

問い合わせ先・申込先 一般社団法人日本金型工業会西部支部 辻

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル305

電話 06-6479-1477 FAX 06-6479-1479

メール r.tsuji@jdmia.or.jp

以上

■ 基調講演（講演概要）

テーマ：先々代、先代から引き継いで来た事、それは前例のない事、モノ、サービスへの挑戦！！

講師：株式会社岡崎製作所 代表取締役社長 岡崎 浩 様

★講演概要★

型を製作して、108年。

今、世にないモノを創る。

前例のない事、モノ、サービスへの挑戦！！

先々代からの教えを引き継ぎ、変革してきました、今までと、今と今からを。

過去に遭遇した様々な経営危機にどう対応してきたか、先々代、先代の対応も含めて説明して参ります。現状、これからの戦略も含めて、説明します。

■ 技術発表講演会 内容 I

【プログラム①】

テーマ：3次元非接触測定機によるプレスパネルの板厚評価方法

会社名：株式会社アルモニコス

発表者：山根 雅則 氏

発表内容

難成形材ではプレス成形時のワレ、しわの「成形性」やバックやそりなどの「形状変形」が課題となっている。昨今は製造業にも非接触測定機の導入がすすみ、「形状変形」に対する適用効果は大きい。半面、「成形性」への適用はまだ少ない。

3次元非接触測定機による実際のプレスパネルの測定結果を活用し、板厚増減率の評価にて成形性（ワレ、しわ）を効率良く判定できる手法、評価用ソフトを紹介する。

【プログラム②】

テーマ：成形サイクルタイムの皮算用でも解析してみたら！

会社名：株式会社CAEソリューションズ

発表者：大桑 一 氏

発表内容

射出成形のサイクルタイムは、製品の量産計画にもとづき決定された生産要件のひとつです。その中で最も多くを占める冷却時間は、製品品質確保の為にどれだけ必要か、それとも短縮してコストを下げられるのか、生産計画との兼ね合いもあり、適切な条件が求められます。

冷却時間について、近似計算により検討する例をあげ、これに対して解析を使ったらどのように見えてくるのか、近似計算と解析との比較検討を報告します。

【プログラム③】

テーマ：金型製造業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）

会社名：丸紅情報システムズ株式会社

発表者：大和杉 徹 氏

発表内容

金型製造現場では、熟練者による経験値・工夫で、なんとか品質を維持している状況にあり、さらには人材不足や熟練者の退職も年々大きい課題となっている。DX 導入の必要性を感じながらも、検討がなかなか進まない企業も多いように見受けられる。

ドイツの金型業界で、CAD/CAM ソフトウェアメーカーとして実績のあるTebis社は、金型製造業向けのMES（Manufacturing Execution System：製造実行システム）としてProLeiSを提供している。ドイツの主要自動車メーカー各社では既にProLeiS が導入され、金型の生産性を革新的に向上させた。

本発表ではProLeiS による金型製造プロセスのDX 化について紹介する。広範囲の製造監視、リアルタイム情報、効率向上、時間短縮、コスト削減、ヒューマンエラー防止等、様々な利点について説明する。

【プログラム④】

テーマ：加工現場DX化推進プロジェクト

『スマートマシニング運用に向けた仕組みづくりとは』

会社名：株式会社データ・デザイン

発表者：今田 智秀 氏

発表内容

加工現場のDX化が求められる中、金型メーカーが取り組みを始めるための3ステップと具体的なデジタルマシニング運用環境についてご紹介します。

まずは、個人に依存しない加工データ生成プロセスの標準化と自動化が重要となります。標準化を行うための「テンプレート化」については、弊社が取り扱うCAMソフトウェアの事例をもとに、どのような整理が出来るのかをご説明します。その「テンプレート」を自動的に選択し無駄の無い加工データ生成を行うための方法についても、導入してご活用頂いているユーザー様の事例を交えながら、具体的なデジタルマシニング運用環境の構築例についてご覧頂きます。

機械加工設備の稼働率向上と成果物の歩留まり改善、CAD/CAM従事者の均一的なスキルアップと新たなデジタル人材の急速立ち上げ、加工ノウハウの数値化による社内共有と次世代メンバーへの継承などにも触れながら、これからのデジタルマシニング運用に向けた仕組みづくりをご提案いたします。

【プログラム⑤】

テーマ：Sablux社製 金属表面ブラスト処理装置ユニフィニッシュについて

会社名：日工機材株式会社

(協賛メーカー) ユニテック・ジャパン株式会社

発表者：吉本 裕大 氏

発表内容

Sablux社製 金属表面ブラスト処理装置ユニフィニッシュは、超低圧 (0.3bar) からの圧力調節が可能で、金型の寸法変化を最小限に抑え、マイクロ単位での磨きを実現します。

例えば、切削加工、研削加工、放電加工、マシニングなどの加工目を短時間で取り除くための磨きとして実績がございます。その他にもバリ取り、コーティング前処理、離型性向上等多様な用途でご活用頂けます。

